

9/24(土) まいど! 倫理号です。皆さん連続休「か」が本週はですか
晴れもよし、雨もよしと喜んで迎えれば天も味方にくらいですか?

孝で進むアホ一鳥

2022. 9. 24~9. 29

今週の

倫理

9月のテーマ | 境遇を受け入れる

1300号

昨今、異常気象が頻発しています。今年も春には北海道で統計開始以来最速で桜の開花が観測され、六月になると東京都心で記録開始以来最も早く猛暑日を迎えました。更に下旬には九日連続の猛暑日を記録し、これは観測史上最長でした。また各地で局所的な大雨が降り、気象庁は今年の夏を「異常な状態であった」と分析しました。こうした異常気象は、日本だけでなく世界的に発生しており、枚挙にいとまがありません。

自然環境の影響を直接的に受ける第一次産業はもとより、それ以外の分野においても、天候気候と無関係な仕事はないでしょう。また天候気候は、自分の力で操作ができないことであり、かつ逃れることも出来ません。こうした異常気象は、予想も対処も難しいものであるだけに、天候により心の状態が左右されたり、気候が心配の元となっていたりする人も少なくないのではないでしょうか。

しかしながら、先述したようにどれほど心を砕いてみても、天候や気候を思い通りにすることはできません。ですから、事業を展開する上で、一日一日の天候気候の中で、できることを模索し実行するという態度が大切です。

倫理研究所の創設者である丸山敏雄は、天候や気候に対する心構えや行ないを記した「天候気候の倫理」(『純粹倫理原論』に掲載)という論文を発表し、自然的事象に対し、どのように向き合うべきか、その姿勢について次の二点を論述しています。



いかなる天候気候も 喜んで受け入れていく

- ① 順応 そのまま、すなおに受けとって、手だてをして、少しも不足に思わず反抗しない
 - ② 畏親 えらい力だと敬い畏れ、和やかな心で親しむこと
- すなわち、親に対する倫理が「孝」であり、周囲の人に対するみちが「和」であるように、天候気候に対する人間の倫理は、ひたすら「順畏」(穏やかに従い、厳かに親しむこと)であることだと説いています。
- さらに、そうした心持ちにある時には、肉体や環境も豊かに栄えると説き、逆に、天候気候に対する不満は、病気や事業不振のもとになるとも述べているのです。
- ① 天候と身体 思っても及ばぬことに気遣い心を砕き、心配し恐れることが病気の原因になり動機になり、また起こった病気を悪くする役目をしている
 - ② 天候と事業 天候や気候によって仕事の能率が上下するように見えて、実のところは、天候に引きずられて、人の心が上下することが本質である
- さらに、付け加えて丸山敏雄が主張しているのは、「人天に順えば、天また人に和す」ということです。換言すれば、天を直接操ることは出来なくとも、穏やかな心で順応した時、自ずと天候や気候もまた和らいでくるといふことです。
- 今日一日がどのような天候気候であつても、晴れもよし、雨もよし、と喜んで迎えることです。そうすることで、きっと、天もまた、自分に味方してくれるはずですよ。